

高齢者の地域外出の現状と道路選択の傾向
—雑司ヶ谷地域^{*1}を対象として—

21319019 鈴木英里佳
指導教員 葉袋奈美子 准教授

高齢者 外出 地域環境整備
雑司ヶ谷 経路選択 歩行空間

1. 研究の背景と目的

わが国は超高齢社会に入り、今後も高齢化率は上昇し続ける。今後は高齢者がいつまでも元気に暮らして行けるよう、より地域に出ていきやすい環境作りが重要になる。既往研究では、高齢者に求められる街路空間を明らかにする研究は数多く存在するが、高齢者個人の性質を捉えてそれぞれに相応しい道空間を明らかにしたものはない。そこで本研究では、高齢者をタイプ別に分類し、それぞれに求められる街路空間の条件を解明し、地域住環境整備のための知見を得ることを目的とする。

2. 研究手法

狭隘道路が多く、車両よりも歩行による移動を促しやすい空間である雑司ヶ谷での、高齢者へのヒアリング調査を行い、高齢者の外出状況や道の選択傾向を把握した。高齢者が大勢集まる社会教育施設の一つである南池袋区民ひろばの参加者を主な対象として調査した。そこで得られた道について物的要素を確認するために道調査を行った。集めたヒアリングデータを定性的に分析し、道の物的要素との関係性を明らかにしたうえで、高齢者のタイプによってどのような道が選択され得るのかを明らかにする。調査概要については表 1 に示す。なお対象地は、大街路内のまとまりのある生活空間である明治通り、目白通り、不忍通り、首都高速 5 号池袋線、グリーン大通りに囲まれた地域とした。

表 1 調査概要

	ヒアリング調査	道調査
対象	雑司ヶ谷地域を日常的に歩く 60 歳以上の男女	ヒアリングで得られた雑司ヶ谷地域の幹線道路を除いた道
方法	調査シートと地図を用いたヒアリング	調査シートと写真撮影
期間	2016 年 5 月～9 月	2016 年 11 月～12 月

3. ヒアリング調査から得られた高齢者の特性

3-1. 高齢者の分類

今回ヒアリングした高齢者は最低週 3 日以上は外出している為、閉じこもり高齢者^{*2}はいなかった。外出意欲、居住歴、健康意識、地域愛着、身体的不安感から、分類すると、11 パターンの高齢者が存在した。その中で、似

た性質の高齢者にタイプ分けし、最終的に 4 つのタイプに分類することができた (表 2)。

表 2 高齢者のタイプ

タイプ	名称	人数
I	地域外出に積極的な高齢者	18 人
II	今は無理をしない以前は積極的な高齢者	5 人
III	昔から居住してないが地域に興味を持つ高齢者	3 人
IV	地域外出に消極的な高齢者	4 人
その他		2 人

3-2. 高齢者の歩行時の意識の比較

ヒアリングをした際、「好きな道・よく通る道」に比べて「嫌いな道・通りたくない道」は回答が少なく、なしと回答する高齢者が多くいた。また回答があっても「坂道」や「危険な道」等、具体的な道の場所ではなく抽象的な場所が多かった。逆に、「好きな道・よく通る道」では、具体的な道の場所がよく挙げられることから、高齢者は「好きな道・よく通る道」については普段意識して歩いているが、「嫌いな道・通りたくない道」については特別意識していないといえる。

3-3. 道選択理由の分類

「好きな道・よく通る道」、「嫌いな道・通りたくない道」の理由として挙げられた回答を筆者が理由別に分類した (表 3)。ヒアリングより、長年変化のない道については愛着を感じて肯定的な感情を持つが、変化してしまった道については否定的な意見が目立った。しかし、変化した道が嫌いな道になるわけではないことが確認できた。道の今後街路整備においては、なるべく現状を変えないことが望ましいといえる。

表 3 道選択理由の回答と人数

a) 好きな道・よく通る道				b) 嫌いな道・通りたくない道			
理由種別		内訳		理由種別		内訳	
物理的理由	23	安全	7	物理的理由	11	危険	9
		景観	16			景観	2
心理的理由	21	安心	1	心理的理由	13	不安	1
		愛着	9			変化	2
		感覚	11			感覚	10

4.道調査から得られた雑司ヶ谷地域の特性

4-1.道の分類

高齢者のヒアリングで得られた道の調査結果より、道路幅員、路面テクスチャー、車の交通量、傾斜の有無、緑の有無から、雑司ヶ谷の道を分類したところ、43パターン存在した。その中で、似た特徴を持つ道にタイプ分けをすると、最終的に5つのタイプに分類することができた(表4)。図1で地図上に示す。なお、調査で道を区切る際には、道と道の交差点の場所で区切った。

表4 道のタイプ

タイプ	名称	本数
A	歩きやすく地域外の人も利用する道	5 ^{*3}
B	裏道としての要素が強く散歩に適した道	44
C	歩くときは車に気を付けたい危険な道	57
D	静かだが裏道要素がなく散歩用事共に適した道	27
E	歩きやすいが静かではない道	25

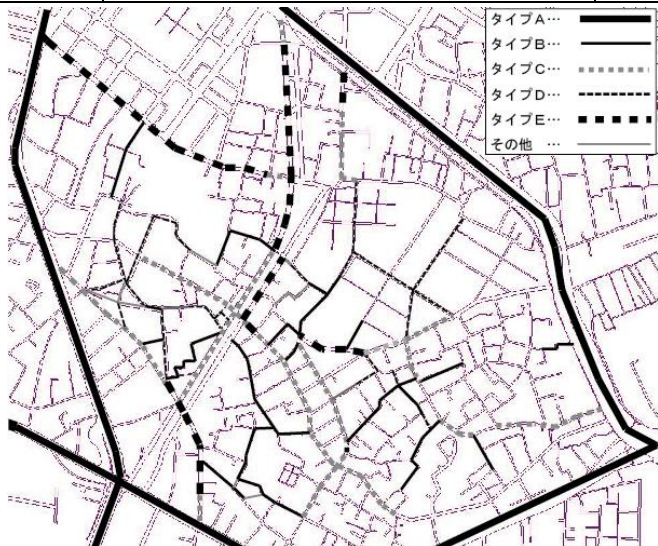


図1 調査した道のタイプ分類

4-2.外出目的の違いによる経路選択の傾向

用事での外出と趣味や健康で外出する場合では道選択に違いがあることが明らかになった。散歩コースと用事コースでそれぞれの道を比較すると、傾斜、道幅、路面テクスチャーでそれぞれ違いがみられた(表5)。このことから、住宅街における散歩道として高齢者に相応しい道は、適度に起伏があり、道幅が広すぎず、路面はアスファルトでない道であるといえる。

表5 外出目的別の経路比較

		用事コース	散歩コース
傾斜	有	12%	18%
	無	88%	82%
道幅	4m未満	27%	41%
	4m以上6m未満	51%	29%
	6m以上	22%	29%

路面テクスチャ	アスファルト	12%	18%
	アスファルト以外	88%	82%

5.高齢者のタイプと道の経路選択との関係性

高齢者のタイプ別に、どのような道を選択するのか線で繋ぎまとめた(図2)。タイプIの高齢者はどのタイプの道も歩く傾向にあり、タイプIIIの高齢者はタイプBの道を選ばない傾向にあり、タイプIVの高齢者はタイプAの道を歩かない傾向にあることが明らかとなった。

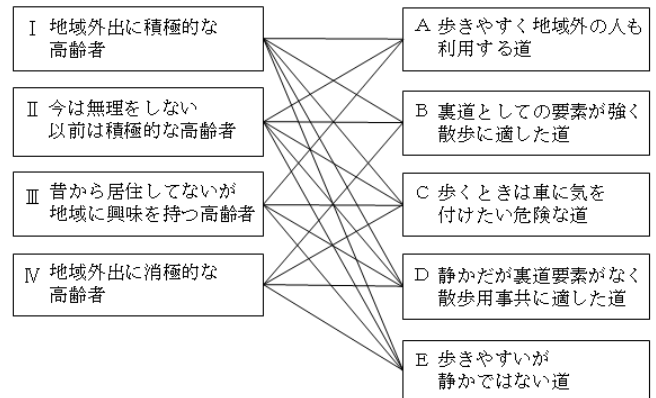


図2 高齢者のタイプと道のタイプの関係

6.まとめ

今回調査した高齢者は比較的居住歴が長く、また外出にも積極的な高齢者が多かった。長年住んだ地域に愛着を感じており、道についても昔と今を比較する発言が多くみられた。高齢者をタイプ別にし、道の選択傾向との関係性を確かめたところ、居住歴が長く外出に積極的な高齢者は多様な街路空間の歩行を楽しんでおり、消極的な高齢者も嫌いな道は避けつつもある程度の地域外出をしていることが明らかとなった。また、ヒアリング結果から、高齢者は道の変化についてマイナスの感情を抱く傾向にあることから、今後の地域環境整備に至っては、なるべく昔からある街並みを変化させないことが必要になる。今回の調査で高齢者にも様々なタイプがいることがわかったが、街路空間の多様さによって、各々の外出の楽しみを見い出せるような歩行空間づくりが重要になる。そして、居住歴の短い高齢者でも、外出の積極性という内面的要素だけでなく、これらの情報が伝わることでより積極的な地域外出が見込めると考えられる。

註釈と参考文献

*1 ここで雑司ヶ谷地域とは、明治通り、目白通り、不忍通り、首都高速5号池袋線、グリーン大通りに囲まれた地域とする

*2 殆ど外出しない高齢者のこと

*3 タイプAは幹線道路であり、通りの名前の数でのカウント

1) 皆川智子：雑司ヶ谷研究その1—道路の構成と住宅更新—2011年